

個別注記表

重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) たな卸資産

商品	最終仕入原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定)
仕込品	総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)
原材料	月別総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)
貯蔵品	最終仕入原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については定額法)を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	10～20年
構築物	10～20年
機械装置	8～9年
工具器具備品	3～6年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。なお、リース取引開始日が平成20年12月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(4) 長期前払費用

均等償却しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。

4. 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

貸借対照表に関する注記

- 有形固定資産の減価償却累計額 8,217,020千円
- 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務(区分表示したものを除く)
 - 短期金銭債権 15,057千円
 - 短期金銭債務 3,073,602千円
 - 長期金銭債務 6,000,000千円

損益計算書に関する注記

- 親会社との取引高
 - 営業取引による取引高
 - 仕入高 11,639,511千円
 - 販管費及び一般管理費 3,302,375千円
 - 営業外収益 90,719千円
 - 営業外費用 54,400千円

2. 減損損失

当社は、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として主として店舗ごとに資産のグルーピングを行っており、当事業年度において、以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

用途	種類	地域	件数	減損損失 (千円)
店舗等	建物等	北海道・東北	3	16,776
	同上	関東・甲信越	7	109,674
	同上	近畿・中国	4	33,975
	同上	九州・沖縄	1	1,989
合計			15	162,416

当社は、キャッシュ・フローを生み出す最少単位として店舗ごとに資産のグルーピングを行っております。

店舗の営業損益が継続してマイナス、又は、資産の市場価格が帳簿価額より著しく下落している資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

その種類ごとの内訳は以下のとおりであります。

建物	127,830 千円
構築物	1,542 千円
機械装置	10,465 千円
工具器具備品	22,496 千円
リース資産	81 千円
その他	0 千円
合計	162,416 千円

なお、当該資産グループの回収可能価額は主として使用価値により測定しております。

株主資本等変動計算書に関する注記

1. 当事業年度の末日における発行済株式の種類及び総数

株式の種類	当事業年度 期首の株式数	当事業年度増加 株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末の 株式数
普通株式	6,000株	一株	一株	6,000株

税効果会計に関する注記

1. 繰延税金資産・負債の主な発生原因別内訳

繰延税金資産(流動)	
未払事業税	△9,113 千円
未払事業所税	8,917 千円
賞与引当金	45,807 千円
その他	22,021 千円
繰延税金資産(流動)小計	67,631 千円
評価性引当金	0
繰延税金資産(流動)計	67,631 千円
繰延税金資産(固定)	
減損損失	166,998 千円
資産除去債務	379,548 千円
その他	1,665 千円
繰延税金資産(固定)小計	548,211 千円
評価性引当金	△2,220 千円
繰延税金資産(固定)計	545,992 千円
繰延税金負債(固定)	
有形固定資産(資産除去債務見合)	114,930 千円
その他	0 千円
繰延税金負債(固定)計	114,930 千円
繰延税金資産(固定)の純額	431,062 千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳

法定実効税率	35.13 %
(調整)	
住民税均等割	7.12 %
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.18 %
評価性引当額の増減	0.13 %
過年度税金等	0.63 %
税制改正による税率変更差	△1.61 %
その他	3.45 %
税効果会計適用後の法人税等の負担率	45.03 %

リースにより使用する固定資産に関する注記

貸借対照表に計上した固定資産のほか、リース取引開始日が平成20年12月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

1. リース物件の取得原価相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

	取得原価相当額	減価償却累計額相当額	減損損失累計額相当額	期末残高相当額
リース資産	134,166 千円	53,374 千円	32,553 千円	48,237 千円

2. 未経過リース料期末残高相当額

1年内 28,000千円

1年超 34,692千円

合計 62,693千円

3. 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

支払リース料 110,851千円

減価償却費相当額 13,656千円

支払利息相当額 2,086千円

4. 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

5. 利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

金融商品に関する注記

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社の資金運用については運転資金(主として短期)及び設備投資資金(長期)であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

敷金及び保証金は、主に店舗の賃貸借契約によるものであり、賃貸人の信用リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスク管理

敷金及び保証金は、取引開始時に信用判定を行うとともに、契約更新時その他適宜契約先の信用状況の把握に努めております。

②流動性リスク管理

借入金、流動性リスクに晒されておりますが、当社では、資金繰計画を作成する等の方法により管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定において変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

当事業年度末における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは次表には含まれておりません。

(単位:千円)

(単位:千円)

	貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	780,344	780,344	—
(2) 敷金	924,734	923,618	△1,116
(3) 保証金	439,750	436,193	△3,556
資産計	2,144,829	2,140,156	△4,672
(1) 借入金(*)	6,000,000	6,000,000	—
負債計	6,000,000	6,000,000	—

(*)借入金については短期借入金と長期借入金を合算しております。

(注1)金融商品の時価の算定方法に関する事項

3. 資産

(1) 現金及び預金、

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 敷金、(3) 保証金

主に店舗の賃貸借契約時に差入れている敷金及び保証金であり、償還予定時期を見積り、安全性の高い長期の債券の利回りで割り引いた現在価値により算定しております。

4. 負債

(1) 借入金

変動金利借入金であるため、短期間で市場金利を反映し、また、当社の信用状態は借入実行後大きな変動はないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。

関連当事者との取引に関する注記

1. 親会社及び法人主要株主等

(単位:千円)

属性	会社の名称	議決権の所有 (被所有)割合	関係内容		取引の内容	取引 金額	科目	期末 残高
			役員の兼任等	事業上の関係				
親会社	株式会社 すかいらーく	被所有 直接 100%	兼任 3名	資金の借入	資金の借入(注)	930,000	長期借入金	6,000,000
					借入金の返済	0	買掛金	1,167,893
					利息の支払	53,558	未払金	170,989

(注)取引条件及び取引条件の決定方針等

資金の借入については、親会社の借入金利を勘案し、利率を合理的に決定しております。

1株当たり情報に関する注記

- | | |
|---------------|-------------|
| 1. 1株当たり純資産額 | 353,630.03円 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 48,393.89円 |

資産除去債務に関する注記

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

1. 当該資産除去債務の概要

店舗及び事業用資産の一部について土地又は建物所有者との間で不動産賃借契約を締結しており、賃借期間終了時に原状回復する義務を有しているため、契約及び法令上の義務に関して資産除去債務を計上しております。

2. 当該資産除去債務の金額の算定方法

資産除去債務の見積りにあたり、使用見込期間は10年から20年、割引率は0.74%から2.10%を採用しております。

3. 当事業年度における当該資産除去債務の総額の増減

期首残高	1,071,774 千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	41,255 千円
時の経過による調整額	13,642 千円
資産除去債務の履行による減少額	<u>△22,372 千円</u>
当事業年度末残高	<u>1,104,299 千円</u>

その他

1. 役員の異動

(1) 代表者の異動(追加選定)(平成29年2月1日付)

① 新任代表取締役社長

代表取締役社長 岩井 繁明(前 執行役員 マーチャンダイジング本部長)

② 退任代表取締役社長(辞任による退任)

崎田 晴義(前 代表取締役社長)

2. その他の注記

記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。